

6月25日(日)



# うなぎ弁当

当店手作りの惣菜入りの

1パック

1,580円(税込)



西田鮮魚店

☎72-5246

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達)

御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍

皆さん、ジメジメして暑い毎日ですが、バテおられませんか？

本日のご近所にはまっています。ご存知の方もいらつしやると思いますが、アジフライ弁当を最近販売して、沢山のお客様から美味しかったという声を聞く...美味しい弁当また作りたくありません...

うなぎ重販売も考えていたのですが「弁当じゃ」と独り言。隣にいた惣菜担当の城田さんが白い目で見てる...「弁当？うーん？はい。」話が早い。笑。淡々と作ってくださいませ。

惣菜コーナーより、一番人気の南蛮漬け。夏にはさっぱり剣先イカのゲソの酢の物。城田さん手作りで。そして、スナミナ満点のうなぎ。

というもあれこれ食べた自分自身でして、うなぎだけだとなんか物足りなさに感じて、なら弁当当りね！ってなりました。

今回鹿児島県産国産うなぎを使用した、うなぎ弁当を販売致します。数に限りがあります。ご予約も承ります。暑くなる夏に向けスタミナをつけていきましょう！

又、丑の日7/30の四万十鰻のご予約もしておりますのでスタッフにお尋ね下さい。

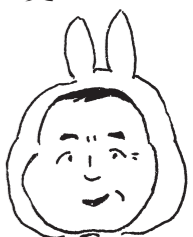
ご来店お待ちしております。

西田鮮魚店 店長 祐宗 優司

# 『広報しようばらで読む』

# 庄原50年の歩み』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史



ジョイフルの西上デパートの前を歩いていると「西田君西田君」と呼ばれた。声の方に振り向くと、竹本さんが笑顔で立たれていた。「お久しぶりです」。ほんとに長いこと、お会いしていない。すこし世間話をしたあと「庄原の古い地図があるんじゃないか？」と言われる。「古い地図ですか？見せてください。」

なんなんだろう。年をとったせいなんだろうか、昔は、どうだったんじゃないかと、ふと思ったりする。ずっと住んでいると町が変わっていつているという感じはない。他県に住む友だちが何年ぶりかで帰ってきて「庄原も変わったなあ」と言ってもピンとこなかったりする。しかし、よく考えてみると、新しい道ができたりして、庄原も、とんでもなく変わった。

古い地図、見てみたい。  
翌日、西田鮮魚店に届けてくださった。

『大日本営業別住所入明細〇之内』という地図（〇は、なんと読むのかわからない見たことのない漢字、国がまえの中に口と面）。庄原町だけでなく、東城町、西城町も載っている。

魚屋を探してみた。『漁商』という欄に『魚問屋・製氷商右近健三 電話九八番』とある。知らない。聞いたこともない。場所は本通りの、20代の私がよく通っていたパチンコ屋の『セクター』のあったあたりだ。隣が『内海料理店』。内海の先生のとこ？料理屋さんだったのか。

『金物・農具・種子 西上商会本店 電話一四二番』これは、『西上デパート』の前身だろう。位置的にもそう。西上さんから一二年以上だと聞いているから。

『ヒバ薬局』『世良百貨店』『中元肉店』『巴軒別荘』、このチラシを刷ってもらっているシンセイアートの前身の『庄原印刷』もある。歴史のある店が庄原にもある。しかし、ほとんどの店が無くなってしまっている。

この地図は、いつごろのものなんだろう。『大日本』というくらいだから戦前だろうが、そうとすれば、昭和初期。90〜100年くらい前のものだろうか。庄原市の歴史にくわしい人に訊ねてみたい。

いっしょに『広報しようばらで読む』 庄原50年の歩みー昭和29年〜平成16年ーという冊子も届けられていた。

庄原に市制が敷かれたのが昭和29年3月31日。私が2才の時。ということは来年が市制70年ということか。

初代の市長は、あの永山忠則さんだったんだ。しかし、永山さんは翌年、衆議院に立候補され、一年間だけの市長だった。知らなかった。

永山さんといえば、昭和40年、自治大臣に就任され、板橋の家まで提灯行列したことを覚えている。私は中学1年生だった。提灯の長い行列の中で、大臣ってすごいんだと思った。

翌、昭和30年の市長選で選ばれた二代目市長は八谷正義さん。林学博士の学位をもつ学者市長、行政運営については未経験だと紹介され二期八年務められた。

つい笑ってしまったのは、この市民広報（第10号）のトップの『市制一周年に 八谷新市長を迎えて』という記事の中にこんな表現があった。

『いずこも同じ地方財政窮乏のさ中に、貧乏市の台所を背負う市長の大任を果たされるためには、今後幾多の難関と障害が予想されるのではあるが……。』

と、堂々と貧乏市と呼んでいる。誰が書かれたのか知らないが率直でいい。

まあ、時代そのものが貧乏だった。そんな中でも昭和32年12月27日。庄原市役所の新庁舎が落成している。このとき私は5才だが、写真にもあるように、大変な騒ぎだったことをうつつすら覚えている。小学3年生のとき、新庁舎の屋上に上がった。屋上というのは初めてだったから感動した記憶がある。いずれにしても、貧乏市だとか言いながらも、先に希望があり、みんな元気な時代だった。新庁舎の興奮は、子供の私にもあった。

こんな記事もあった。あのころ、これも貧乏ゆえの記事かもしれない。昭和35年だ。

『ねずみ退治の始末記 7400匹が姿けす』。

全県で一斉にねずみ退治をしたらしい。そういえば、小学生のころ、我が家でも、夜になると屋根裏でがたがたとねずみが走る音がした。「また、ねずみが運動会をしようる」と話したものだ。私はねずみが大の苦手。本に載った写真でさえ、恐くてさわれない。

記事には、『ねずみ一匹が年間千円の食べ物や農作物などを盗むといわれますから、7400匹ならば740万円の富が得られた結果となります。』とある。なるほど。

そして、庄原市で一番ねずみを捕ったのは川北町の上原重男さんの32匹。因みに県下では松永市の男性の517匹だったらしい。想像するだけで背筋が凍る。

この作戦には『ねずみくじ』というものがあつたらしく、特等はテレビ、一等は電気洗濯機、二等は東芝ラジオ、三等電気アイロン、四等マツダランプとなっている。

そういえば、ねずみ駆除で思い出した。このころは、定期的に殺虫剤のDDTを各家庭に噴霧していた。私は西浦に住んでいたが散布の機械を乗せたりヤカーがくると常会のみんな外に出て、噴霧で家の中を真っ白にされ、それが鎮まるまで、家に入れなかった。

昭和の30年代、私は保育園児から小学生。我が家の住所は庄原市本町西浦1279。西浦の中組。西中と呼んでいた。今でも1年に一度くらい、懐かしくて歩いてみる。あのころの空気がかすかに残る。岩瀬のおじさん、おばさんにお世話になった、同級生の木曾のぼうや、和森のやっさん達と「まぐろ」をし、「でこち」をした。

このあたりの地図が残っていたらいいのと思う。71才になったからかもしれない。そんなことを思うのは。

そういえば、大人になった30代の私は『千里十里』に足しげく通っていたな。西浦下組。西下の『千里十里』へ。いつもお客で一杯だった。



市政施行祝賀パレード  
昭和29年3月31日



市庁舎の落成を祝って集まった市民  
昭和32年12月27日